

公 民

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 公民科における個別最適な学び、協働的な学び

学習指導要領では、子どもたちの多様化が一層進む中で、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用しながら、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ることとされている。

個別最適な学びは、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念であり、次のような指導の個別化と学習の個性化という二つの側面で整理される。

【指導の個別化】

基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、支援が必要な子どもに対して、重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現することや、特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うこと。

【学習の個性化】

基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整すること。

「協働的な学び」は、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら行う学びであり、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるようにするためには、「協働的な学び」の充実が重要である。「協働的な学び」においては、集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出すようにすることが大切である。

公民科においては、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、その結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ることが求められている。このことを踏まえ、次の「公共」の1単位時間の学習指導案の例において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場面及び留意点等を示す。

<学習指導案の例>

【 単 元 】 持続可能な社会づくりの主体となる私たち					
【本時のねらい】 持続可能な社会づくりを担う主体となることに向け、様々な現代の諸課題があることを確認し、考察、構想したい問いを設定させるとともに、その解決に向けた見通しをもたせる。					
【本時の問い】 持続可能な社会づくりを担う主体となることに向け、私たちが解決に取り組むべき諸課題にはどのようなものがあるだろうか。					
過程	主な学習活動 ◇学習活動概要 ◆指導上の留意点	評価の観点			評価規準等 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」
		知	思	態	
導入	◇これまでの「公共」の学習で取り上げた解決すべき現代の諸課題について振り返り、これらを参考に、自分が探究する問いを設定し、問いの解決に向けた見通しを立てる。 ◆設定した問いが、探究する上で社会的に意義		●		●地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きるという観点から課題を見いだしている。

個別最適な学び	があり、法、政治及び経済などの各領域を横断し、自己の在り方生き方と関わるものになるよう助言する。 ◆ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）等を蓄積・分析・利活用する。 共通性の確保	【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】 ・方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにすること。 ・情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか判断することが難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成するなどの配慮をする。		
展開	◇各自が設定した問いやその解決策についての提言をグループ内で発表し、議論する。 共通性の確保			
協働的な学び	◇各グループの代表生徒による発表を行う。 ◆各自の発表内容について、提言の妥当性や効果、実現可能性といった点から質問・意見を出し合い、最終的な提言を考察、構想する際のヒントとなるようにする。 ◆発表に当たっては、ICTの積極的な活用を図り、分かりやすく効果的な発表となるよう指導する。	●		●それぞれの提言案をグループで議論しながら事実を基にその妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、協働して考察、構想している。（発言） 共通性の確保
まとめ	◇グループ内やクラスでの発表を踏まえ、自分の提言案を修正し、完成させる。		●	●グループでの議論を通して、自身の提言案の修正の方向性や、提言案の改善に有効であった友達の意見や助言などを踏まえ、自らの考えを改善しようとしている。（ワークシート） 共通性の確保

(2) 公民科における共通性の確保を目指した学び

「共通性の確保」については、全ての高校生が社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けられるよう、生徒一人一人の特性等に応じた多様な可能性を伸ばすための「多様性への対応」を併せて進めることによって、高等学校教育の質の確保・向上を目指すことが求められている。

公民科においては、例えば、(1)で示した解決すべき現代の諸課題として、立場や文化によって意見の異なる様々な課題を取り上げた場合、その背景にある考え方を踏まえて、よりよい課題解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力や課題解決のための論理的な思考などの資質・能力を身に付けることができるよう、学習活動や評価規準などを設定することで「共通性の確保」を図ることが考えられる。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

実際の授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わせられて実現されていくことが多いと考えられる。例えば、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらに、その成果を「個別最適な学び」に還元することが大切である。その際、生徒の資質・能力の育成のため、地域・学校や生徒の実情を踏まえ、ICTを活用した新たな教材や学習活動等も積極的に取り入れつつ、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているかを確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが期待される。

また、評価に際しては、(1)で示した例のように、生徒が「個別最適な学び」で思考・表現した内容が、「協働的な学び」を通してどのように変容したのかについて、教師がワークシートや生徒の話合いの様子から見取り、必要に応じて適切な支援を行うなどした上で、例えば、主体的に学習に取り組む態度の評価においては、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と「現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度」を評価することが大切である。

2 指導と評価の計画例

(1) 公共の計画例「A 公共の扉(2)公共的な空間における人間としての在り方生き方」

ア 単元の目標

公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性、幸福、正義、公正などに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する活動や課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。
- ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。
- ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る。
- ・幸福、正義、公正などに着目して、倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・公共的な空間における人間としての在り方生き方について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取っている。	・幸福、正義、公正などに着目して、倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	・公共的な空間における人間としての在り方生き方について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（6時間）※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価

次 (時間)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 (1時間)	【単元を貫く問い】公共的な空間を作り出し、現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすには、選択・判断の手掛かりをどのように活用すればよいのだろうか。 【活動】「事例研究」の検討を通して、自らの意見をまとめてみよう。 ある状況でなすべき正しい行為は何かを決定する際に、自分がどのような考えに基づいて意思決定をしているのか考察・表現する。 ・「トリアージをめぐる問題」といった生命倫理に関わる現実の事例や種々の思考実験などを取り上げ、自らの意見を考え、記入する。 ・他の生徒の意見を参照して自分の意見を補強したり、自分とは異なる意見に対する反論を考えたりするなど、思索を深める。協働的な学び		●	●
第2次 (4時間)	【問い】社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方にはどのようなものがあるだろうか。 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。 ・具体的な課題について倫理的な観点が明確となる問い（思考実験、現実の事例等）に対する自分の考えを明確にし、記述する。◎提示する事例の例(リンク①) ・古今東西の先人の考え方を理解するとともに、それを手掛かりに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向けて考察する。個別最適な学び	○	●	
	【まとめの問い】公共的な空間を作り出し、現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすには、選択・判断の手掛かりをどのように活用すればよいのだろうか。 ・学習履歴を参照しながら単元の導入で考察した事例について自分の意見を改めてまとめ、単元のはじめにまとめた自分の意見と比較する。◎学習履歴を活用する以外の評価問題の事例(リンク②) ・自身の考えの変化や深まりに着目し、学習履歴を参考にして、考えを深めたり、まとめたりするなど、今後の学習を進める中で生かしていきたいことを見いだす。個別最適な学び		○	○
第3次 (1時間)			○	○

エ 学習指導案（4時間目／6時間中）

○ 本時の目標

- ・公正と正義をめぐる思想を展開した思想家の考え方を理解するとともに、それを手掛かりに、公共的な空間において自らも他者も共に納得できる解決方法を多面的・多角的に考察する。

○ 本時の展開

中学校社会科や他教科での学習との関連付けをすることで、既習事項を振り返ることができるため、学習の動機付けにつながる。

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	【問い①】累進課税は、なぜ行われているのだろうか。 ・中学校社会科での学習を踏まえ、累進課税がなぜ行われているかを確認する。	【共通性の確保】立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、公正に判断、合意形成する力や課題解決のための論理的な思考などの資質・能力の育成
展開	【問い②】社会保障制度を立ち上げるとき、どのような原則をつくらばよいのだろうか。 ・リバタリアニズムの立場からは、富を再分配する福祉政策は個人の権限である所有権を否定するもので、認められるべきではないという意見がある。 ・思考実験「無知のヴェール」をグループで行い、各グループで採用されたルールを発表し、各グループの討議した結果とロールズの正義論を比較・検討する。協働的な学び	

	・ ロールズの正義論への批判の一つとして、アマルティア・センの思想を紹介する。 ・ ロールズとセンの思想が、実質的平等を目指すポジティブ（アファーマティブ）・アクションや社会保障につながる思想であることを説明する。また、「人間の安全保障」や「南北問題」につながる視点であることを説明する。	■評価の留意点 【C評価の生徒への手立て】 「学習履歴」の記述への添削指導やコメントを通じた問いかけを行い、粘り強く生徒の思索を促していくことが考えられる。
まとめ	・ 確認問題に取り組む。 ・ 「学習履歴」に、本時の問い②に対する回答を、本時に学習した思想家の考え方を踏まえて記述する。個別最適な学び	

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫

学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい場合には、社会的事象等を読み取りやすくするためにニュースやドラマの一場面を活用したり、思考実験を考察するための観点をヒントとして提示したりするなどの配慮をする。

(イ) Googleフォーム等の活用による意見の共有

具体的な課題について倫理的な観点が明確となる問い（思考実験、事例等）を生徒に示し、その問いへの回答をGoogleフォームやGoogle classroomのコメント欄に記入させる。それによりクラス全体の意見が瞬時に可視化され、自らと異なる視点や考え方をもち生徒との対話を促すことができる。また、生徒から出された解答に対して

累進課税なぜ必要？

コメント欄に書いてください。

👤 クラスのコメント 39 件

5月10日
恵まれた人の富を恵まれてない人に再分配することが公平だから。

5月10日
全員が最低限の生活をできるようにするため

5月10日
高所得者と低所得者との貧富の差を縮めてできるだけ平等にしようとしている。

5月10日
低所得者の分も高所得者が多く払って、国の経済を安定させるため

教師が発問を重ねることで、議論を活性化させることが期待できる。これらの対話や議論を踏まえてさらに思索を重ねたり、自らの思索の問題点を修正したりすることで、多面的・多角的な考察・表現につなげていくことができる。

(ウ) Google スプレッドシート等の活用による「学習履歴」の蓄積

毎回の授業時に記述で振り返りをさせて、それをGoogleスプレッドシートやGoogleスライドに保存する。以前の学習経験を参照しながら授業の振り返りを進めることで、思索の深まりを促す効果が期待できる。また、生徒の記述を確認する中で「おおむね満足できる」状況（B）に達していない生徒に対する手立てを講じるなど、学習改善につなげることもできる。単元の導入の段階や途中段階において「学習改善につなげる評価」を適切に行った上で、単元のまとめにおける「評定に用いる評価」につなげていくことが考えられる。また、コメント欄に学習改善の方策に係る教師のコメントを記載をして生徒にフィードバックすることで、学習改善を促すことができる。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

(2) 倫理の計画例 「A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 (1) 人間としての在り方生き方の自覚」

ア 単元の目標

人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解する。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解する。
- ・古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る。
- ・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解している。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解している。 ・古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取っている。	・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりする。

ウ 単元の指導と評価の計画（6時間）※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価

次 (時間)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 (6時間)	【単元を貫く問い】「私たち人間が、人生において根本におくべきものは何か。どのようにすればそれを実現できるか。」 【問い】人生にとっての幸福とは何か。社会を構成する人々と共に幸福を実現するためにはどうすればよいか。 先哲の思想（原典資料等）を、手掛かりとして、現代における自己実現と幸福に関わる課題を多面的・多角的に考察し、その結果から、人生における倫理的課題を見いだす。		●	●

【共通性の確保】
自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力の育成

対話を通して、単元を貫く問いに対する答えを導くために必要なことを挙げるなど、解決への見通しを立てている。（発言）

ICTを効果的に活用し、原典資料について生徒相互の理解が深まるよう、指導の工夫

第2次 (7時間) 協働的な学び 個別最適な学び	【問い】人間をどのように捉え、人間の尊厳についてどこに根拠を求め、どのように思索すればよいか。 グループワークなどの対話的な活動を通して、どのようなことが分かれば問いに対する答えが導かれるかなどの、学習の見通しを立てる。 先哲の思想（原典資料等）を、手掛かりとして、現代における人間の尊厳と生命への畏敬に関わる課題を複数提示し、提示された課題について考察させる。	●			自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現している。（記述）
第3次 (2時間) 個別最適な学び	【問い】宗教や芸術は人生においてどのような意義をもつのか。 宗教や芸術に関わる倫理的課題の解決に向けて、倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。	○	●		
第4次 (1時間)	【学習を振り返る小レポート（ワークシート）の作成】 単元を貫く問いに対し、単元のはじめに考えた自身の考えと、本時における考えとを比較し、まとめる。 ・学習を振り返るワークシートの作成 単元を貫く問いに対して、新たな問いや自身のこれからの生き方についての課題を記述させる。		○	○	【留意事項】 小レポートの交流や発表会等を実施する際には、他者の考えに対する欠点を探すために質問を重ねるのではなく、他者が自身の考えをより深く考えることができるよう、質問をすることに留意させる。

エ 学習指導案（1時間目／16時間中）

○ 本時の目標

単元を貫く問いに対する答えを明らかにするために、哲学に関わる対話的な手法を用いて自身の既存の考えを表現するとともに、単元の見通しをもつ。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 協働的な学び	【問い】人生にとっての幸福とは何か。社会を構成する人々と共に幸福を実現するためにはどうすればよいか。 ・各自が問いに対しての答えをワークシートに書き出しペア又はグループワークにより多面的・多角的に考察する。	次ページの資料を参照 共通性の確保
展開 個別最適な学び	・個人又はグループで個々の考えを表明し、その考えに対してグループ内で問いを重ねるなどの対話的な活動を通して、学習の見通しを立てる。 ・個人又はグループで吟味した問いを発表する。	・問いに関する古代ギリシアから近代までの代表的な先哲の思想を、原典資料（含芸術作品など）の読み取りなどを基に理解できるようにする。
まとめ	・本時の内容を踏まえ、先哲に対して聞いてみたい質問と、その質問に対して先哲はどのように回答するかを予想し、まとめる活動を通して、生徒同士での相互評価を行い、学習の振り返りを行う。	・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、その結果から、人生における倫理的課題を見出し、単元を見通せるようにする。

対話を通して、自身の考えの変化などに着目し、考えを深めたり、まとめたりする上で参考になった事柄を見いだせるように指導の工夫をする。

代表的な先哲の思想（原典資料）については、その収集にかかる時間を考慮し、家庭学習等の課題設定に工夫をする。

先哲が、現代における自己実現と幸福に関わる課題に対してどのように答えるかを、根拠を基にしてまとめさせる。（記述）

資料 単元導入時の「問いを磨く」ワークシート（例）

●今の自分の問い 問い その問いを選んだ理由	
↓	
●問いの答え 思いつくことを書き出してみましょう 答え（予想・仮説）① そう考える理由	●明らかにしようとしたこと どんな要素に着目して答えを考えたか 答えを考える際に着目した要素
答え（予想・仮説）② そう考える理由	答えを考える際に着目した要素
●この問いについて、関心があること	

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫

学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい場合には、写真などの資料を提示したり、発問を工夫したりするなどの配慮をする。

(イ) 主体的に学習に取り組む態度の「評定に用いる評価」を行う際、生徒に振り返らせる項目の例

- 「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く学習に取り組む状況」に関する項目
 - ・ 単元のはじめに考えた「単元を貫く問い」に対する自身の考えと、単元のまとめで考えた「単元を貫く問い」に対する自身の考えを比較させる。
 - ・ 自身の考えの変化や深まりに着目し、学習履歴を参考にして、考えを深めたり、まとめたりするなど、今後、学習を進める中で生かしていきたいことを、見いださせる。
- 「他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度」に関する項目
 - ・ 探究する学習を通して、新たに探究したい倫理的課題とその理由について記述させる。

※評価の総括の仕方については、
令和3年度の手引を参照。

(3) 政治・経済の計画例「A 現代日本における政治・経済の諸課題 (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

ア 単元の目標

社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・地域社会の諸課題について理解する。
- ・課題を抱えている地域の事例や課題解決に取り組む事例を手掛かりとしながら、生徒自身が居住している地域社会が、高度経済成長期以降どのように変化してきたのか、そして、現在どのような課題があるのかを調べ、地域社会が自立し、持続可能な発展と生活の向上を支える政策や制度について構想し、さらに、それらを実現するためにどのような経済活動を展開し、どのように財源を確保するのかといったことについて、自分の考えを説明、論述する。
- ・地域社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために諸課題を主体的に解決する。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地域社会の諸課題について、理解している。	・課題を抱えている地域の事例や課題解決に取り組む事例を手掛かりとしながら、生徒自身が居住している地域社会が、高度経済成長期以降どのように変化してきたのか、そして現在どのような課題があるのかを調べ、地域社会が自立し、持続可能な発展と生活の向上を支える政策や制度について構想し、さらに、それらを実現するためにどのような経済活動を展開し、どのように財源を確保するのかといったことについて、自分の考えを説明、論述している。	・地域社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために諸課題を主体的に解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (5.5時間) ※「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価

次 (時間)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 (1時間)	【単元を貫く問い】地域社会が特色を生かしながら自立し、住民生活を向上させるためには、どのような政策や制度が必要だろうか	単元のはじめと最後に意識調査を行うことで、生徒の変容から、単元で身に付けるべき見方・考え方が身に付いているかを確認することができる。また、授業改善につなげることができる。 【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】 視覚的に資料の読み取りが困難な場合は、モニター等で拡大して、見るべき部分を明確にするなどの配慮をする。		
	【問い】自身が居住している地域社会にはどのような課題があるのだろうか 自身が居住する地域社会が抱える課題を、グラフやデータから読み取る。 ・Googleフォームを活用し、自身が居住する地域社会が抱える課題への関心や、その解決に向けた生徒の意識調査を行う。 ・自治体が公開している情報や、RESASで公開されている情報を提示し、グループで分担して読み取って課題を把握する。 ・グループで読み取った課題について共有し、グループごとに深める課題を1つ選択する。協働的な学び			
第2次 (1時間)	【問い】地域社会の課題への理解を深めるために、どのような問いと仮説を立てるとよいだろうか	深める課題について自己決定させることは、主体的に取り組む態度を育む視点からも大切である。		

【共通性の確保】 自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力の育成	第1次で選択した地域社会の課題について、調査するための問いと仮説を立て、問いと仮説の相互評価を行う。 - グループで選択した地域社会の課題について、「生活への影響」、「課題の背景」、「課題の要因」、「解決に向けた事例」、「事例から見込める効果」の5つの視点で調査するための問いと仮説を立てる。 - ホワイトボードアプリを活用し、問いと仮説を相互評価して、項目ごとにどのような問いと仮説をもとに調査を進めるべきか決める。			●
第3次 (1時間)	【問い】地域社会の課題について、どのような情報を収集すべきか 地域社会の課題について、グループで分担して、問いと仮説をもとに情報収集を行う。 地域社会の課題について、第2次で提示した各項目をグループで分担し、問いと仮説をもとにどのような方法で情報収集を行うべきか見通しを立てた上で、情報収集を行う。	●		● 学びに向かう力・人間性等を育成するための学習の進め方や学習評価の工夫 学習の進め方や学習評価の工夫
第4次 (1時間)	【問い】地域社会の課題について、他者へ伝えるために、どのように表現すべきか 地域社会の課題について、グループで分担して、発表に向けた資料を作成する。 Googleスライドを活用し、地域社会の課題について、第3次で収集した情報をもとに、プレゼンテーション資料を作成する。	●		●
第5次 (1時間) 単元の終末で、「単元を貫く問い」についての解を回収するような工夫も考えられる。 【共通性の確保】 自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力の育成	(再掲)【単元を貫く問い】地域社会が特色を生かしながら自立し、住民生活を向上させるためには、どのような政策や制度が必要だろうか 地域社会の課題について、作成した資料をもとに発表し、事例についての自己評価と他者評価を比較する。 - グループで調査した課題のうち、事例における「優先性」、「効果性」、「独自性」、「地域性」などの観点から自己評価を行う。 - 地域社会の課題について、ワールドカフェ形式で発表を行う。 - 発表を聞く生徒は、Googleフォームを活用し、上記の観点から評価を行う。 - 自己評価と他者評価を比較し、事例についての再評価を行う。 - 学習の振り返りシートを作成する(授業後の宿題)。			多面的・多角的に考察する力を養うために、取組や政策などの事例を評価する上での観点を明確化する。また、自己評価と他者評価を比較することによって、自分の考えを広げたり深められる場面を設定することが大切である。
第6次 (0.5時間) 【共通性の確保】 自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力の育成	地域社会の課題について、単元テストを行う。また、アンケートを通じて、関心や意識の変容を確認する。 - Googleフォームを活用し、単元テストを行う。 - Googleフォームを活用し、自身が居住する地域社会が抱える課題への関心や、その解決に向けた意識がどのように変化したのかを把握し、指導の改善に生かす。	○	●	○ ● 学びに向かう力・人間性等を育成するための学習の進め方や学習評価の工夫※オ(ア)
	ICTを活用した評価の工夫			

エ 学習指導案 (2時間目/5.5時間中)

○ 本時の目標

- 地域社会の課題への理解を深めるために、「生活への影響」、「課題の背景」、「課題の要因」、「解決に向けた事例」、「事例から見込める効果」の5つの視点で調査する

ための問いと仮説を適切に表現することで、今後の学習活動への見通しをもつ。

○ 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	【問い】地域社会の課題への理解を深めるために、どのような問いと仮説を立てられるとよいだろうか ・第1次で選択した課題と現状について、確認を行う。	
展開 協働的な学び	・グループで選択した地域社会の課題について、「生活への影響」、「課題の背景」、「課題の要因」、「解決に向けた事例」、「事例から見込める効果」の5つの視点を踏まえ調査するための問いと仮説を立て、ホワイトボードアプリに入力する。 ・他者の問いと仮説を相互評価する。	・批判的に評価し合うよう指示し、よりよい問いと仮説にたどり着けるよう働きかける。 ・問いや仮説を立てにくいグループには、他のグループの問いや仮説をヒントにするなど、教師が適切に支援を行う。
まとめ	・地域社会の課題に関する各項目について、どの問いと仮説をもとに情報収集につなげるべきかを協議して決定し、次回への見通しを立てる。	・モニターにホワイトボードアプリを投影し、質の高い問いと仮説について取り上げる。

他者の問いと仮説を相互評価することで、個々の学習到達度に応じた改善点を見いだすことが大切である。

ホワイトボードアプリを活用することで、生徒の立てた問いと仮説を用いて、よりよい問いと仮説を立てるための視点・観点をその場で共有することができる。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

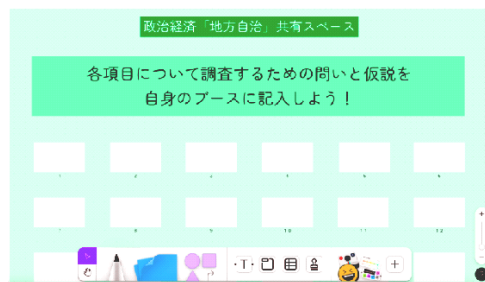
(ア) 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導方法の工夫

情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか判断することが難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮を行う。

(イ) 学びに向かう力・人間性等を育成するための学習の進め方や学習評価の工夫

○ ホワイトボードアプリを活用した問いと仮説の相互評価

ホワイトボードアプリは、生徒の入力した内容をその場で共有できるため、相互評価を行う上で有効である。相互評価を通じて、よりよい問いや仮説について協議することで、学習改善が期待できる。



○ 振り返りシートの活用

本単元を通して振り返りシートを活用

<https://www.figma.com/ja/figjam/>

し、学習で困難さを感じたこととその改善策を考えることにより、学習改善が期待できる。

◎振り返りシート(リンク③)

(ウ) ICTを活用した評価の工夫

Googleフォームを活用し単元テストを行うことで、知識・技能の評価が容易になる。また、即時に採点が行えるため、生徒の理解が深まっていない内容を直ちに把握し、効果的な解説を行うことができる。

※評価の総括の仕方については、令和3年度の手引を参照。

Topic

◎「主権者教育」の充実

～令和5年度公立高等学校公民科における新聞を活用した取組～

公民科においては、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすることが目標とされている。

ここでは、日本新聞販売協会北海道地区本部との連携により、生徒が新聞を活用して現代の諸課題を追究したり解決したりする学習活動に取り組んだ主権者教育の実践例を示す。

【岩内高校】「公共」

- 学習内容
現代の経済社会と国民生活
- 授業の目標
新聞から物価変動に関する情報を適切に読み取り、市場や金融に対する見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察する力を身に付ける。
- 授業の問い
「今後、日本の物価はどのように変動するだろうか」
- 授業の概要
 - ・需要と供給や通貨供給量、円の価値の変動に関わる出来事や金融政策が物価にどのような影響を与えるかを予想し、予想した理由をグループで共有する。
 - ・グループ内での共有をもとに、改めて今後の物価がどのように変化するかをまとめる。



【上磯高校】「公共」

- 学習内容
地方自治
- 授業の目標
新聞記事から得られた事実を基に地方の現状と課題を的確に認識し、解決に向けて協働して考え、自分の意見を表現する力を身に付ける。
- 授業の問い
「このまちが抱える課題について、自治体と私たちができることは何だろうか？」
- 授業の概要
 - ・北斗市と函館市の決算を読み取り、比較する。
 - ・「2つの市の財政と福祉政策」という記事を読み取り、まとめる。
 - ・「道南地方が抱える課題」が書かれた記事を読み、要約シートに記入する。
 - ・記事から道南地方が抱える課題を見付け出す。



【留萌高校】「公共」

- 学習内容
世論の形成と政治参加
(政治参加と民主政治の課題)
- 授業の目標
 - ・新聞記事等の資料から、様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる力を身に付ける。
 - ・よりよい社会の形成の参画のために、他者と協働して課題に取り組む力を身に付ける。
- 授業の問い
「社会の参画に必要な知識を得るために、大切なことは何だろうか」
- 授業の概要
 - ・複数紙で取り上げられている話題について、記事の掲載方法を比較・検討し発表する。
 - ・複数日で取り上げられている話題について、時系列の変化を検討し発表する。



【別海高校】「政治・経済」

- 学習内容
現代の日本経済と福祉の向上
(労働問題と労働者の権利)
- 授業の目標
多様な働き方・生き方を可能にする社会について取り上げた課題の解決に向けて政治と経済を関連させ、多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する力を身に付ける。
- 授業の問い
「快く働ける職場とはどのようなものか」
- 授業の概要
中小企業の問題点、農業の安定と国際化、公害問題及び労働問題、消費者の問題等について、それぞれの問題点等を考察、表現する活動を通じて、現状を知ることや、世の中の動きを把握した上で、生徒が将来を見据え、自身の職業選択に生かせるようにする。



【取組後の生徒の感想】

- 為替や金融政策以外にも、様々な出来事が物価に影響していることが分かりました。一つの出来事で物価が決まるわけではないので、色々な情報から考えて判断することが重要であると感じました。(岩内)
- 普段新聞を読むことがないので、今回の授業を通じて、新聞について深く知ることができ楽しかったです。(上磯)
- 各社同じ話題を取り上げていたとしても、その掲載方法等がどのように違うのかを細かく見ていくことが必要だと思いました。(留萌)
- 自分の働いていたアルバイト先で、働いていた時間どおりに賃金が支払われていない時期があったので、労働基準法を知る必要性を感じたため、学校の授業で習ったことが役に立ったと思えました。(別海)

Topic

◎「道徳教育」の充実

～個別的な人権課題を基に生徒が主体的に考察・表現する取組～

高等学校における道徳教育においては、公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動を人間としての在り方生き方に関する中核的な指導場面としながらも、教育活動全体を通して、主として「自分自身」、「人との関わり」、「集団や社会との関わり」などに関する道徳的諸価値についての理解を基にしながら、様々な体験や思索の機会を通して、人間としての在り方生き方についての考えを深めるようにすることが大切である。

また、生命を尊重する心を育てること、義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うことなどに関する指導が適切に行われるように配慮しなければならない。

そして、こうして学んだことが、日常生活の中で、いじめに対してその間違いに気付き、友達と力を合わせ、教師や家族に相談しながら正していこうとするなど、いじめの防止等に生徒が主体的に関わる態度へとつながっていくことが重要である。

特に、公民科においては、社会における不合理な差別を完全になくすことに主体的に取り組むよう、基本的人権に関して十分な理解と積極的な態度を身に付けることが必要であり、そのため、社会の様々な分野における差別撤廃の努力について、具体的な事例を手掛かりに学習できるようにすることが望ましいとされている。

ここでは、個別的な人権課題のうち、性的マイノリティや、ハンセン病に対する偏見・差別について、生徒が主体的に考察する学習活動に取り組んだ道徳教育の実践例を示す。

【事例①】「多様な性について考える」

○ 学習のねらい

生徒が性的マイノリティの問題に対する正しい知識を理解するとともに、事例を基に、差別や偏見の解消に向けた方策を考察することにより、人権を尊重する心を養う。

○ 学習の特徴

- ・性的マイノリティの問題に詳しい養護教諭と連携
- ・養護教諭が講師となり「多様な性」について講義
- ・具体的な問いをもとに偏見や差別を解消するための方策を生徒自ら考察
- ・問い

「性的マイノリティの人ための更衣室やトイレ等の施設はどのように対応すべきか」
「親しい友人から性的マイノリティであることを相談されたらどのように応えるか」



【生徒の意見】

「公共施設の在り方について性的マイノリティの人と意見を交わして決める必要がある。」
「友人に相談されたら、まず多様な性を正しく理解した上で、友人の気持ちを尊重する。」

【事例②】「ハンセン病問題について考える」

○ 学習のねらい

生徒がハンセン病問題に対する正しい知識を理解するとともに、講師の実体験を基に、差別や偏見の解消に向けた方策を考察することにより、人権を尊重する心を養う。

○ 学習の特徴

- ・北海道保健福祉部と連携したセミナーを実施
- ・国立ハンセン病資料館事業部社会啓発課から講師を招聘
- ・セミナー後の学習において偏見や差別を解消するための方策を生徒自ら考察



【生徒の意見】

「このセミナーで初めてハンセン病問題を知った。私たちが伝えることが大切だと感じた。」
「人間の主観や思い込みを見直せたら、差別される人がいなくなるのではないかと感じた。」